

# ニュースレター 50

2011. 7. 30

## 経済社会学会 The Society of Economic Sociology

巻頭言 百々和先生の思い出 第47回全国大会のご案内 大会プログラム 自著を語る 「経済社会学」を教える 部会研究会報告 部会研究会報告要旨 新入会員自己紹介 東西合同役員会議事録 東部部会役員会議事録 日本経済学会連合報告 会員異動

### 移行的労働市場論

内山隆夫

EUの雇用政策はフレキシキュリティ・アプローチを採用し、本年度からの中期戦略「欧州2020」でも継承されている。フレキシキュリティ (flexicurity) は、労働市場の柔軟性 (flexibility) と保障 (security) から成る造語である。フレキシキュリティ政策の第一義的な目的は、労働市場の柔軟化によって生じる被用者の不安定性を社会的に取り除くことよりも、グローバル化と少子高齢化、さらには技術進歩が欧州社会モデルに挑む諸問題を解決し、欧州経済の競争力を向上させようとするところである。

フレキシキュリティ・アプローチの大きな特徴は、勤労生活をライフサイクルの中で位置づけることにある。そこでは、入職から定年まで働き続ける直線的一方通行型ではなく、この間に離職して職業(再)訓練に参加したり、育児・介護に従事してのち、職場に復帰する多方面双方向型の勤労生活が想定されている。このような労働市場を移行的労働市場 (transitional labor market) と呼び、移行的労働市場論がフレキシキュリティ政策の理論的パラダイムを提供する。

我が国でも労働者派遣法の相次ぐ改正に見られるように、1990年代半ば以降に労働市場の規制緩和が急速に進み、非正規雇用の拡大とともに労働市場の柔軟性が高まった。非正規雇用者の増加は「雇用の劣化」とも特徴づけられるが、グローバル経済の本質的な特徴がコスト競争であることから、この動きは不可逆的とも思える。労働市場の規制緩和は他方、雇用形態の多様化への道を開いた。移行的労働市場論にしたがえば、労働市場変容のこの側面を補完し、新しい労働市場を創出するためには、失業保険から雇用保険へ、さらには勤労生活保険への拡張が強調される。これにより就業力の向上のみならず、ワーク・ライフ・バランスが促進され、社会的な活動への参加も容易になるからである。

フレキシビリティの分析にさいしては、労働市場の柔軟性と保障の代理変数がそれぞれ指定され、各国の制度が類型化される。技術進歩とともに働き方が変わり、被用者が同一企業で継続的に働く期間が短縮され、社会的に必要とされる総労働時間も減少し、育児や介護、さらにはボランティア活動などへの時間配分は増加することになる。移行的労働市場論は、こうした新しい労働市場の分析枠組みとして示唆に富んでいる。

(京都学園大学)

## 百々和先生の思い出

福田 亘

本学会の名誉会員で、草創期から発展期にかけて本学会に多大の貢献をされた百々和先生が、去る2月18日に91歳で逝去された。心からご冥福をお祈り申し上げるとともに、本学会の創設者の一人であった北野熊喜男先生門下の大先輩として百々先生より研究・教育のみならず私生活面においても懇切な指導を受けた者の一人として、百々先生の思い出の一端を綴ってみることにしたい。

百々先生は、満州国のエリート養成のため1938年設立され、俊秀が集った建国大学の栄えある第一期卒業生であるが、小生は満州国の溥儀皇帝臨席のもと卒業生を代表して卒業証書を受け取られている若き日の凛としたお姿の先生の写真を拝見したことがある。建国大学自体は日本の敗戦とともに閉校を余儀なくされたものの、同窓会は存続し、その後も活発な活動を続け、先生もそれに積極的に参画されていた。だが、その全体同窓会も卒業生の高齢化を理由に昨年6月8日の開催をもって幕を閉じることになったという。ご子息によると、先生はこの最後の同窓会への出席を無上の楽しみとされ、実際東京で開催された会合に最高齢者として出席され、見事その目標を達成された。大きな目標を成就された後の陥穽とでもいふべきか、その直後から体調を崩され、ついに不帰の客となってしまわれた。

先生は1960年代の大学紛争について紛争当初から「革命ごっこ」にすぎないと喝破されていた。今となっては珍しくない、このご発言が当時から強い説得力をもっていたのは、先生のご経歴の然らしめるところで、実は先生は建国大学卒業後ほどなく徴集により軍隊に入営され、敗戦後は国民党軍に留用され国共内戦を3年間戦われ、さらに人民解放軍の勝利後は同軍の俘虜として7年間にも及ぶ抑留生活を余儀なくされるという当時の時代状況の中でも最も過酷な体験をされていたからである。先生が戦争と革命に巻き込まれる中で体験された修羅場に比べれば、大学紛争は所詮「ごっこ」の域を出るものではなかったのである。ところで、この敗戦後10年余の先生にとって真に不本意で不遇の期間が「自願」とみなされたことについて、その不当性を巡って裁判でも争われたが、その訴えが結局認められなかったことは先生にとって遺憾と無念の思いで一杯であったに違いない。

先生は戦争により長い回り道を余儀なくされたにもかかわらず、逆境をはねのけられ、経済社会学（先生ご自身は社会経済学という表現の方を好まれたが）や体制論研究で名を馳せられるとともに、晩年は青春時代を過ごされた中国へのご関心から中国経済についての深い洞察をも啓示されていた。とまれ激動の時代の生き証人でもあられた先生のご逝去には「巨星墜つ」との無念の想いが強いが、また時代の移り変わりの無常さをも改めて思い知らされざるをえない。

(岡山商科大学)

## 経済社会学会第47回全国大会のご案内

大会準備委員長 大西 秀典(尾道大学)

経済社会学会第47回全国大会は、「現代経済社会の倫理的基盤」を大会テーマとして、2011年9月17日(土)、9月18日(日)に尾道大学を会場として開催されます。

[市立] 尾道大学 〒722-8506 広島県尾道市久山田町1600番地 TEL 0848-22-8311(代)

[尾道大学へのアクセス]

- JR山陽本線「尾道駅」より

駅前バスターミナルよりおのみちバス「尾道大学前」「陽光台」行きバス乗車。

「尾道大学前」バス停下車。あるいは、タクシーにて約15分(約1900円)

- JR新幹線「新尾道駅」より

タクシーにて約10分(約1300円)

